

ぶんすいれい
吉野川の分水嶺を歩く！



赤星山山頂と霧氷

こんにちは。山登り好きの「岳」です。

山好きな私が吉野川の分水嶺を歩きながら、読者の皆様に吉野川流域の山々の素晴らしさと現状を紹介したいと思います。

第9回は、愛媛県新居浜市の峨蔵越^{がぞう}から赤星山^{すいは}と翠波峰・境目峠を経由して四国霊場八十八箇所の六十六番雲辺寺付近までを紹介します。

1月21日は銅山川北側の尾根にある峨蔵越から赤星山を経由して翠波峰まで歩きました。

登山口は新居浜市峨蔵林道の別子登山口から入山し、1時間程度登山道を登っていくと峨蔵越に到着します。この峨蔵越は、かつて江戸時代、別子銅山と瀬戸内を結ぶ重要な街道であり、銅の他、瀬戸内の魚介類を運ぶ道でもありました。



江戸時代の重要な街道「峨蔵越」



登山道脇のイノシシの寝床



この分岐から東方向の赤星山方面に向かう途中で、ササ原の中から「ブォ」という鳴き声とともにドッドドと足音を立ててイノシシが逃げ去っていきました。自分はというと木に登ろうとしてました。逃げ去ったササ原を覗くとササが倒され、イノシシの寝床となっていました。

しばらく歩くと伊予小富士の別名をもつ赤星山に到着しました。先週の温暖な天気により山頂には雪はありませんでしたが、霧氷が綺麗でした。また、5月にはカタクリという名の花が見られます。

さらに分水嶺を東方向に歩いて行くと双耳状に東西2つの峰を持つ翠波峰に到着しました。山頂付近に広場があり、そこまで車道が通じ容易に山頂に行けます。その広場からは四国中央市が見え、夜には夜景が見えます。また、近くには翠波高原があり、春は菜の花、秋はコスモスが咲きます。

2月18日は、是非参加したいとN村氏が名乗りを上げ、翠波峰から堀切峠付近まで歩きました。

翠波峰からは、柳瀬ダム湖の金砂湖きんしゃこなどが見え、12月から2月頃の早朝には雲海がよく発生するそうです。3回ほど早朝に見に来ましたが、残念ながら、まだ一度も見たことがありません。

翠波峰から東側の尾根沿いは所々見晴らしの良い場所もあり、吉野川流域の山々が見えます。

堀切峠の東側には、以前紹介した土佐北街道があり、分水嶺付近には「史跡土佐街道お茶屋跡」「土佐藩第9代藩主・山内豊雍侯とよちか和歌の碑」があります。いつかは、高知市から四国中央市に続く土佐北街道を歩いてみたいと思います。



赤星山山頂から見たニッ岳



翠波峰から見た四国中央市の夜景(7月1日撮影)



翠波峰から見た赤星山と金砂湖



分水嶺から見た吉野川流域の山々



堀切峠



土佐藩主の山内豊雍侯の和歌の碑



土佐北街道



土佐北街道 この下にお茶屋跡がある

3月31日は、同行者のN村氏と堀切峠の東側から徳島県と愛媛県境にある境目峠と曼陀峠、雲辺寺を経由して、六地藏越まで歩きました。

境目峠の南側の山から境目峠までの間は林道が出来た40年以上前に木材の運び出しに使っていた道を辿って下りました。

境目峠からさらに北東方面に進むと曼陀峠があり、その昔阿波と讃岐を結ぶ生活道として使われ、第二次世界大戦前までは農耕用の牛を阿波から借り、農作業が終われば米や賃金を払って牛を阿波に帰す借耕牛の道としても使われていました。

また、この辺りはキャベツが生産されていた曼陀高冷地野菜団地ですが、かつての野菜畑は荒地地になっていました。

曼陀峠の東に進むと四国霊場八十八箇所の最高峰の第六十六番雲辺寺があります。

雲辺寺の北側には休憩所の毘沙門天展望館もあり、展望台からは360度の景色が楽しめます。雲辺寺からの景色を楽しんでみませんか？



昔、木材の切りだしに使われていた道



雲辺寺山と曼陀高冷地野菜団地



境目峠



雲辺寺 毘沙門天展望館



毘沙門天展望館中の休憩所



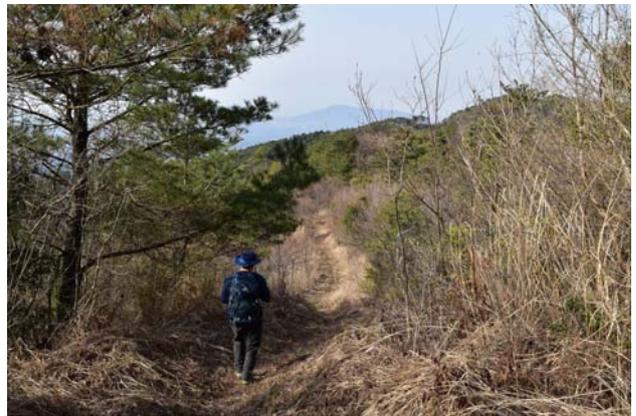
四国霊場八十八箇所 第六十六番 雲辺寺



毘沙門天展望館から見た徳島方面



阿讃縦走コースを歩く 岳



阿讃縦走コースを歩く N村



ミツマタ



タチツボスミレ



ムラサキケマン

◇今回歩いた距離 54.9km

◇今回歩いた分水嶺の距離 40.4km 今まで歩いた距離 218.8km／全長約 402km

◇分水嶺制覇まで、残り約 183km